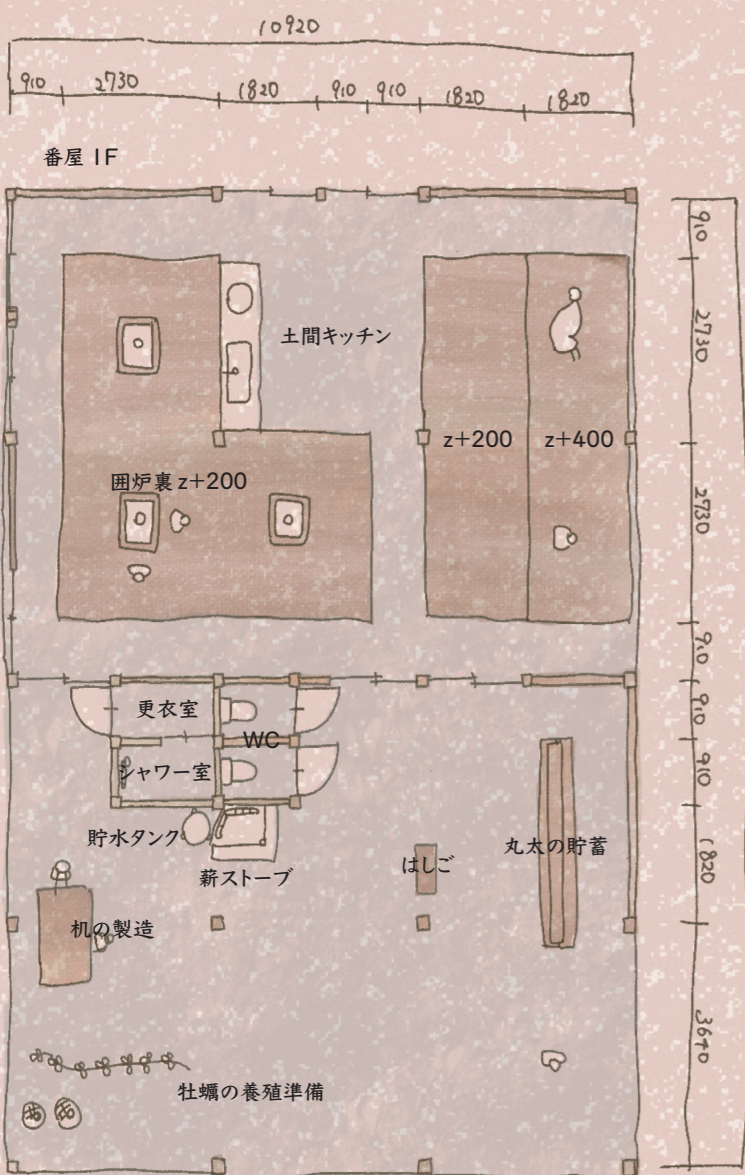
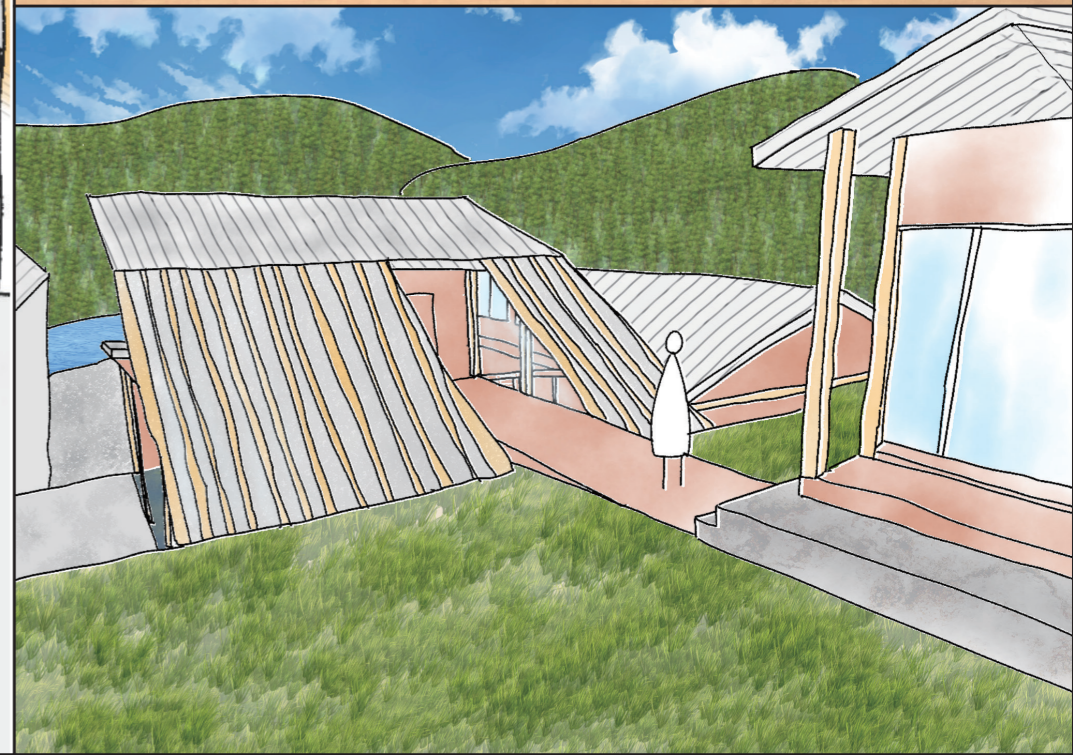
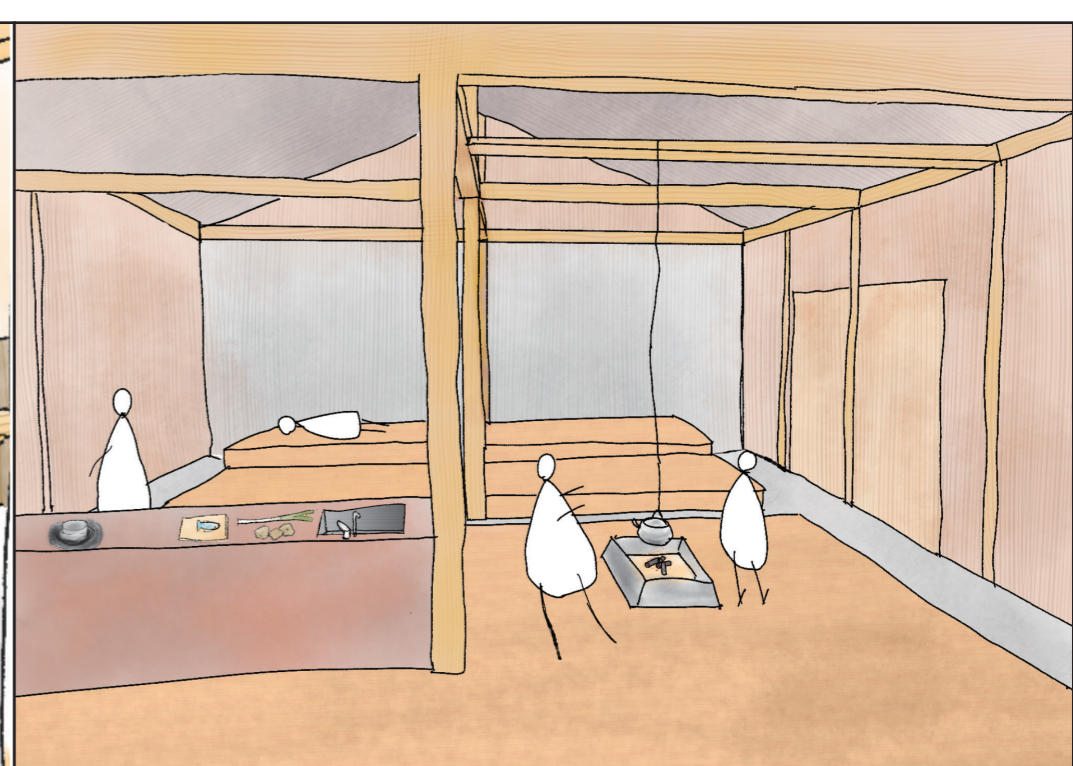
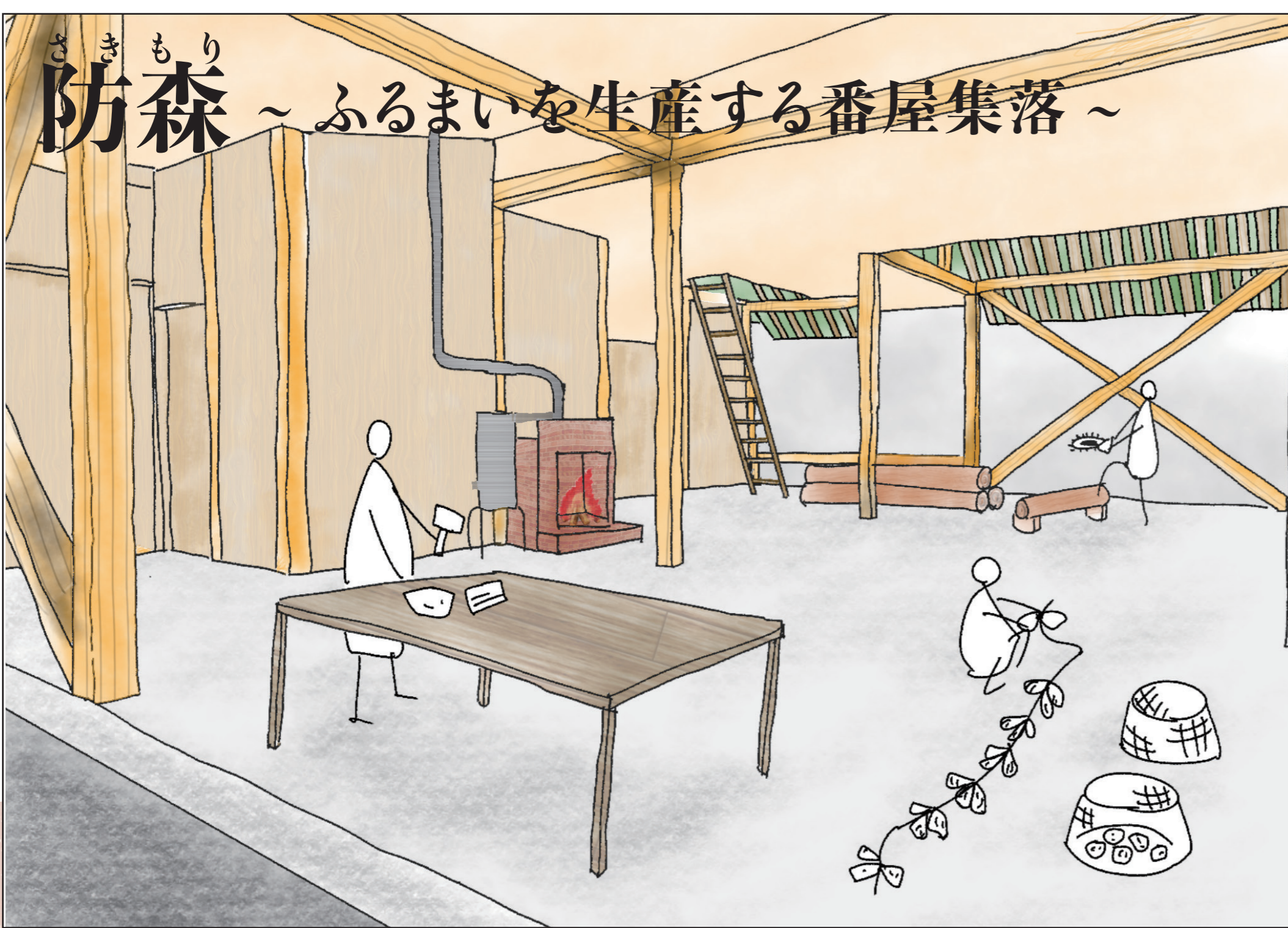


防森 ~ 暮らしを再生する番屋集落 ~



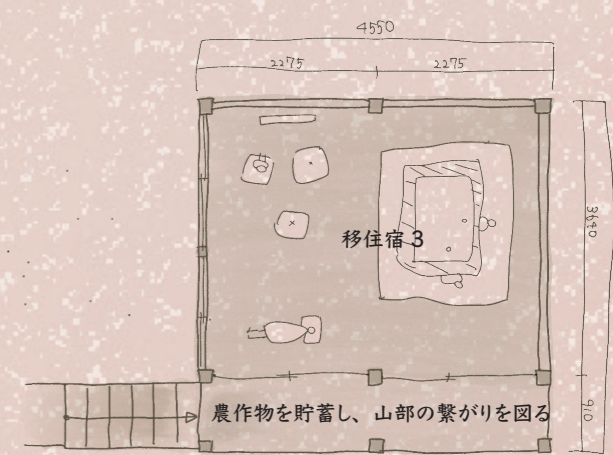
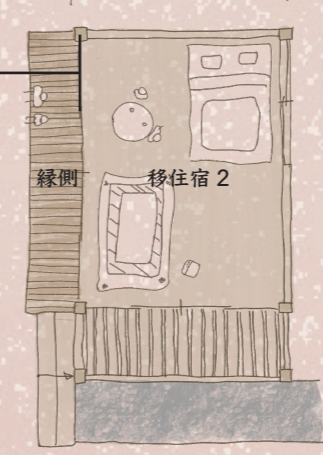
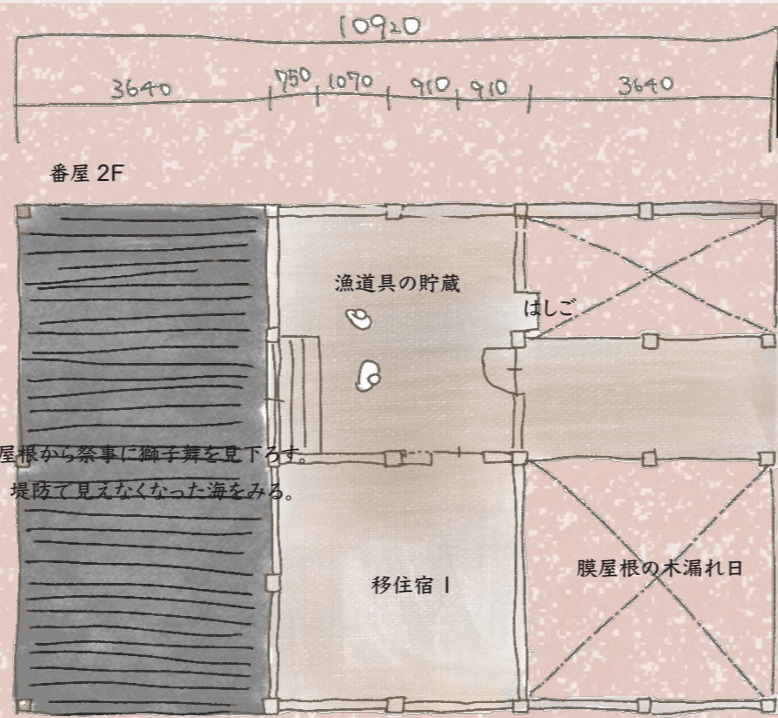
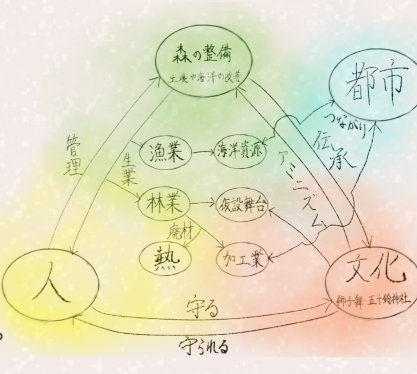
敷地と循環 - 石巻市小測浜 -

小測浜は海と森に囲まれた自然豊かな場所である。東日本大震災の被害を受け、住民は高台移転を余儀なくされ、かつての活気が少なくなっていると感じた。そのため、本提案では都市に疲弊した人を誘い、地域循環に都市の人を巻き込むことによって地域復興をする。体験移住プログラムによって小測浜の良さに気づき、移住することによって森と海の両方を守り守られの循環を形成させる。



提案

移住した人々と森、地域文化の循環を行う。地域循環が行われることで住民の生業が増え、活気あふれるまちが築かれる。



平面図 1/100

海洋

牡蠣やわかめの養殖、かつて盛んだった穴子漁の回帰が行われる。

堤防

レベル1程度の波を受け止めると同時に浸水時間を軽減する。

番屋

漁師が夏の間は漁の準備をしたり泊まり込んで作業をする小屋。従来の番屋の機能とは異なり、冬の間には木材の加工場として木材の番屋として機能する。地域コミュニティの再建と都市の人とのコミュニティの形成を行う。

人工森林

木材を都市や生活に循環させるため、人工的に木を貯蓄できる計画を施す。マスタープランとして5年毎の棚田を整備し、30年のマスタープランを計画する。

神社

五十鈴神社には旧正月獅子舞が継承されている。

船着場

かつての港は番屋のような漁業用の倉庫が点在していたが被災後は閑散とした港となってしまった。本提案でかつての穴子漁を取り戻す浜を作り出す。

平野

船着場と同様に番屋や住宅が点在していたが、今では災害危険区域に指定され、住宅のほとんどが高台移転してしまっ。そのため生活と生業の拠点が離れてしまった。現状を回復するため、番屋集落を再構築し都市からの仮移住を提案する。

畑

地域住民や都市から移住体験してきた人の食糧を自給自足で賄うことのできる畑。食べ物の循環を行う畑。人間が残した食べ物や貝殻の粉末を肥料として用いる。

木材の循環



堤防から見た船着場

